

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071100939		
法人名	有限会社 めぐみ		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	〒811-1355 福岡県福岡市南区桜原1丁目17番16号 Tel 092-554-7633		
自己評価作成日	平成28年11月27日	評価結果確定日	平成28年12月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成28年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療ニーズの高い方を受け入れております。御家族の方の普通の家で最期をと望む声に対応しております。その為にも私達なりにできることを、かかりつけの医師、訪問看護の方々と力を合わせて支援しております。一方で他入居者様にもより家族的な支援を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜原の桜で有名な福岡市南区郊外の住宅街の中に、民家改造型のアットホームな「グループホーム めぐみ」がある。利用者と職員は地域の一員として行事や活動に参加し、親しくなった地域の方が来訪したり、ボランティアを受け入れ、開設15年目を迎え地域交流の輪が広がっている。往診体制が整い、協力医療機関の医師と訪問看護師、介護職員が協力して利用者の24時間が、安心して任せられる医療連携が整っている。調理上手な職員が、交替で作る愛情たっぷりの手作りの料理は味や彩りにこだわり、利用者と職員と一緒に同じテーブルで食べる様子は楽しそうで利用者の健康増進に繋げている。職員は明るい笑顔で利用者に寄り添い、利用者が笑顔を取り戻す様子を見守る家族は、驚きと感動に包まれ「めぐみを選んでよかった」と深い信頼関係がホームと築かれている「グループホーム めぐみ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を携帯し朝の申し送り時に復唱する事でスタッフ間に共有し意識を高めて行く様にしています。カンファレンス時にも自分のケアを見返す事を忘れず、ご近所様や来訪者と交流を図り、利用者様が安心安全に過ごせるケアを実践しています。	「めぐみ」が目指す介護の在り方を示した理念を職員全員が携帯し、毎日の申し送り時に出勤職員で唱和し、理念の意義を理解した上で、利用者本位の介護サービスの実践に取り組んでいる。また、職員は、介護に迷ったり悩んだ時には理念を振り返り、介護の原点に戻っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場への参加はもちろんスタッフ全員法人内ではありますが認知症サポーターの講習を受けサポーターとなっている。ご近所様や来訪者の方々の相談時など認知症やグループホームへの理解を促し地区の総会や毎月の茶話会などで来訪を声かけしています。	地域の総会や茶話会に職員が参加し、認知症やグループホームの啓発活動に取り組み、ホームの存在を理解して貰っている。また、ホームの行事に地域のボランティアや家族が参加し、高齢者介護や認知症について相談を受ける等、日常的に地域の方との交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災等の呼びかけや町内行事への参加。今年度は地域ケア会議へも参加し情報交換と得て意見交換しサービス向上に務めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議での民生委員の包括センター後見人・司法書士による情報交換や支援方法・意見を参考、評価に務めています。	運営推進会議は家族や民生委員、地域包括、後見人等が参加し、ホームの現状や取り組みを報告し、参加委員からは、質問や要望が提案され、活発な意見交換が行われている。議事録に参加者の名簿が記載されていないので今後の課題として、記録の充実に取り組んでいく。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センターへの訪問、他施設からの問い合わせ保護課との情報交換など行なっています。市町村との連携には心掛けています。	管理者は、ケースワーカーや介護保険課と連携し、各種の手続きや介護の疑問点、事故等を報告し、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、意見交換を行い、ホームの運営や取り組みを理解して貰い、アドバイスや情報を提案して貰う等して協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での外部研修を受けた社員から伝達講習施設内での研修、リスクマネジメントマニュアル等による拘束をしないケアを行なっています。	法人内研修を職員が受講し、身体拘束が及ぼす弊害について理解し、スピーチロックやドラッグロックも含めた拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。また、玄関の鍵は、日中は解放し職員の見守りで、利用者が外出できる環境を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル、勉強会、意見交換により日常的に職員が注意を払い防止に務めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強、外部への研修の中、民生委員・包括センター・司法書士(後見人)等の説明を受け活用出来る様にしています。	現在、権利擁護の制度を活用している利用者があるので、職員は、ある程度制度について理解し、パンフレットを用意し、利用者や家族に内容や申請手続きについて説明している。司法書士による制度の勉強会を開催し、利用者の権利や財産が、不利益を被らないように支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に自宅、入院先を訪問し御家族との情報交換、本人様との情報交換を行い契約時には細やかな説明を実施しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状報告はもちろん行事等への来訪の声かけを行っています。来訪時やお電話で御家族の希望を伺いプランに反映しています。	担当職員は利用者の日々の暮らしの中から、思いや意向を聴き取り、家族の来訪時に話し合う機会を設け、利用者の希望や健康状態、暮らしぶりについて報告し、家族の意見や要望を聴き取っている。面会の少ない家族には、毎月の利用者の近況を文書で報告し、電話等で意見や要望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議やカンファレンスを定期的に行い意見交換の場を作っています。	毎月定期的に全員参加の職員会議を開催し、カンファレンスや勉強会を行い、職員間のコミュニケーションを図りながら、意見や要望、アイデア等を提案して貰い、活発な会議になっている。出された意見や要望は、出来る事から実行し、職員のやる気に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加・介護関係の資格取得を促し給与基準の改善を行い、可能な限り休日の希望も聞いています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は関係なくその職員にあった業務に個性を活かし行える様な雰囲気作りに務めており法人での外部研修・施設内研修と伝達も行いスキルアップを目指しています。	職員の募集は年齢や性別の制限はしていないが、全員女性の職員でチームワークも良く、働きやすい職場を目指している。外部の研修会に交代で職員が参加し、資格取得のためのバックアップ体制も整え、職員の介護技術の向上に取り組んでいる。また、休憩時間や休憩場所は職員各自が交代で採れるように配慮し、リフレッシュできるように努力している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法的遵守や人権問題などに関する研修を行っている。	利用者の人権を尊重する介護について、職員間で話し合い、利用者一人ひとりの個性に合わせた言葉かけや対応に配慮し、利用者がその人らしく生活できる介護サービスの提供に取り組んでいる。また、職員は理念を意識して介護に取り組み、利用者の尊厳を守るケアの実践を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの長所、短所、得意分野相性を把握すると共にスタッフ間で指導したり、外部研修での伝達講習を行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の見学や町内会の集まりなどで意見交換や施設情報の確保をしつつサービスの向上に務めています 全国GH大会に参加、懇親会で他施設の人と交流意見交換をしている 地域GHの交流会など。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設・病院に自宅を訪問し御家族・関係者と情報交換をし雰囲気作りや生活の留意点を把握し入居時の不安解消に務めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の通り入居前の訪問と面談で家族の希望、嗜好、歴史、本人の意向などをプランに反映しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現状とご家族の意向を十分に把握した上でプラン作成しサービスの説明も十分に行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側とする側ではなくなじみの関係性を作り家庭的な雰囲気作りを務めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフの年齢層が高いため御家族の相談相手となれる様なんでも。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入京者様のご家族や友人の方からのお電話や来訪時には近況報告を行ない24時間オープンで来訪していただける事をお伝えしています 配偶者のおられる方は定期的な面会など薦めている。	友人、知人、家族の面会時には、居室でゆっくり話が出来るように配慮し、いつでも面会できるように支援している。職員は、利用者の行きたい所や会いたい人を把握し、ドライブの帰りに立ち寄る等して、利用者が培ってきた人や地域社会との関係が、ホーム入居で途切れないように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション誕生会季節行事など交流を図りスタッフ入居者様同士支えあっています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後、入居者様ご家族が立ち寄って下さったり、お電話を頂いたりしております。又、他施設へ転居したり入院された方への面会も定期的に行っております 相手方の迷惑にならない程度に。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活リズムや行動を把握し各入居者様への対応ノートを作成し情報共有をしています。	ケアマネージャーを中心に利用者一人ひとりのアセスメントを入居時に作成し、職員全員が利用者の情報を把握し、利用者との日常会話の中から、思いを聴き取り、介護計画に反映させている。また、意志の疎通が困難な利用者には、家族やベテラン職員と相談し、職員が利用者寄り添い、思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の暮らして来た環境や時代背景を日々の生活の中からその人の言動などから察しながら把握に務めプランに反映させています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フタッフ全員で入京者様の個性や癖、嗜好など身体的精神的状況の把握に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議運営会議カンファレンス及びスタッフミーティングにより介護プラン作成に反映しています。	担当職員は、利用者や家族と話し合う機会を設け、意見や要望を聴き取り、カンファレンスを開催して検討し、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化や急変時には、家族や主治医と相談し、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にできるだけ具体的に記入しカンファレンスやプラン見直し時に活かせるようにしている情報の共有は申し送りノートなどで徹底している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気を大切に入居者様が気遣いなく何でも話せる雰囲気作りをしています。状況に応じて、出来る限りのサービスをしている。結婚式への参加、家族の集まりへの参加などに付き添うなど病院への付き添い。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校との交流サロンの利用などしている又地域への行事への参加など(例えばどんどやき、運動会)などへ参加、入居者の方々ができるだけ豊かに暮らせるように心掛けています		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居様全員提携医による2週間に1度の往診と緊急時には在宅医への協力体制を救急病院への迅速な紹介等により支援しています。	入居時に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と提携医療機関を選択して貰い、ほとんどの利用者が、2週間毎の往診が整っている提携医療機関を主治医としている。訪問看護と看護師によるきめ細かな健康チェックを行い、主治医と連携し、安心して任せられる医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、看護師による指導・相談を適宜実施し研修、講習等の依頼を実施しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の送迎はもちろんの事、入院中の面会や洗濯など行ない病院との情報交換を密に行ない御家族と連携を取りながら緊急時の協力体制の充実を図っております 又退院時はカンファレンスにも参加してDrとも事前に調整をして受け入れています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の入居者様に関しては医師と看護師の指導による対応と終末期のご家族の意向を元に主治医との綿密な情報確認をしながら支援に取り組んでいます 早期から終末期について説明し希望される方とは書面にて確認しております。	契約時にターミナルケアについて利用者や家族に説明し、要望を聴き取っている。利用者の重度化が進むと家族と密に連携し、今後の方針を話し合い、主治医の意見を聴きながら、利用者が安心して終末期の介護を受けられる体制を整えている。また、職員は、看取りを経験し、最後までホームで暮らせる支援について、心構えが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時には対応マニュアルによる対応と医師、看護師の指導による実践教育と医療機関への迅速な連携を実施しています		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局指導による防災訓練や地域の防災訓練への参加防災マニュアルに沿って訓練を実施しています。	消防署の指導と参加を得て毎年2回防災訓練を実施し、地域の方の参加もあり、避難場所での見守りをお願いする等、協力体制が整っている。また、地域との防災協力体制も整え、非常時に相互協力出来る取り組みを行っている。また、火を出さない防火意識にも取り組み、職員一人ひとりの注意力の向上にも取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性や人格プライドプライバシーの尊重を重視し声かけや介護・介助の支援を行っています。	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方を、職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮した言葉遣いや対応に注意し、特に、入浴や排泄の介助では、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、利用者がホームの中で穏やかに暮らせる介護サービスの提供を目指している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動や行動を察知し、スタッフ全員で対応し情報を交換し合い、入居者様が自己決定出来る様支援しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気作りをし入居者様の意向を大切にその方に合った生活作りを支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目に早めの衣替えの支援をし清潔感のある本人様の希望に沿った洋服や身だしなみの支援を行っています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや体調、状態に合わせ調理法、形態を変えたり、旬の食材を使い季節感を感じて頂く様工夫しています 季節感を採り入れています できるだけ旬の食材を使い調理しております。	利用者の嗜好を聴きながら、職員が愛情込めて作る手料理を、同じテーブルに利用者と職員が座り、同じ料理を、談笑しながら食べる様子は楽しそうで、利用者の食欲増進に繋げている。また、旬の食材を使い、利用者に季節感を味わってもらい、行事や誕生日には、特別の料理を提供し、食べる楽しさに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の全身状態の観察把握に務め、季節や状態に応じた酢分料を設定し、その方の習慣も含め支援しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診に加え、毎食後の口腔ケアの実施を行っています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用をなるべく減らし、時間毎のトイレ誘導と個々の行動パターンの把握での誘導を心掛けて、入居者様のペースに合わせ自立への工夫をしています。	トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、声掛けや誘導をタイミング良く行い、失敗の少ないトイレでの自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、ポータブルトイレも使用し、オムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良い物や食物繊維を含む物を使用し水分摂取に心掛け、運動や体操、主治医による指導を受けて、下剤の服用などの便秘解消の工夫をしています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の全身状態や意向を重視し無理強いせず、希望に沿って入浴を行っています。	入浴は週2～3回を基本としているが、利用者の希望や体調に配慮した入浴支援に取り組み、ゆっくり湯船に浸かってもらい、職員と会話しながら楽しい入浴が出来るように取り組んでいる。また、入浴を拒否する利用者には、時間をずらして声掛けしたり、清拭や足浴に変更して、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠状態を観察把握し、時に添い寝を行い良眠出来る様に務めています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導や定期的往診にて届けられた薬はスタッフにより処方箋と照らし合わせて正確な服用をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や地域交流行事、一日の流れ(洗濯、掃除、買い物など)本人に合わせ過ごしていただくが、天気の良い日など庭や外出など心掛けています。工夫をしています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員付き添いでの散歩や買い物、行事への参加など支援しています。又、ご本人とご家族の希望が合えば、外泊、外出支援も行っています。	気候の良い時期を利用して、近隣の散歩や買い物、畑の様子を見に出かける等、利用者の気分転換に取り組んでいる。毎年2回、法人全体のレクリエーション(ミカン狩り、花見)にバスで出かけ、利用者の楽しみなひと時を過ごしている。また、家族の協力を得て、外出や外泊の支援を行い、利用者の生きる力に結びついている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、ご家族や行政関係者にお願ひし金銭管理は行っていませんが、入居者様の希望があれば、後請求で買い物など行っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば、電話の取次ぎや手紙の代筆、郵送の支援を行います。ご家族に対しては、電話や請求書と共に施設内の通信や連絡事項近況報告の手紙を添えて郵送しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街の一角にある一軒家の改装で昭和の香りを残す家庭的な作りで、裏庭があり季節の花々を植え、「自分の家」を思わせるような雰囲気を持っています。	民家改造型の室内は家庭的で温かい雰囲気の中で、リビングルームでは、仲の良い利用者同士が談笑したり、職員と体操やゲームで盛り上がり、対面式の台所からは料理の美味しそうな匂いに誘われて利用者が集まり、楽しい食事の時間である。また、コンパクトな室内ではあるが、アットホームで明るい共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改装のホームでの空間の確保が難しいですが、本人の居室を利用し出来るだけ居間を有効に使い、入居者様には思い思いに過ごして頂くように工夫しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご家族を工夫をし、ご本人様の使った物を持って来て頂き、住み慣れた雰囲気作りを工夫しています。	利用者が使い慣れた家具や寝具、仏壇やテレビ、生活必需品を関係者の協力でもちこんで、自宅と違和感のないように配慮し、生活環境が急変しない工夫をして、利用者が安心して落ち着いて生活出来るように支援し、居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活を過ごせる様に居室に危険物は置かず残存能力を生かし「出来る事は自分で」をモットーに過剰な介護はしない様スタッフ全体でミーティングなど行い統一した介護を心掛けています。		